

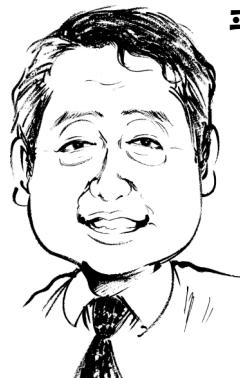
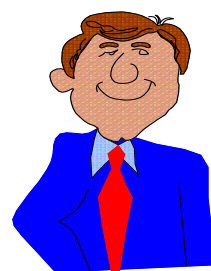
学校・生活・勉強・進学情報満載!



# あむーる

島根県立松江北高等学校1R学級通信 第2号

# No.2



# 先輩達のセンター試験英語の勉強法

▼6月のマーク試験、厳しい船出となりました。今回は北高卒業生のみなさんに「センター試験の勉強法」に関して、後輩達にアドバイスを書いてもらいました。参考にしてくださいね。🍀🍀🍀

私がセンター模試及び本試を通じて感じたことは、センター試験は英語に限らずどの教科でも、とにかく**時間との戦い**であるということです。英語に関して言えば、長文読解問題にどれだけ時間を費やせるかが重要だと思います。このためには、第一問題の発音・アクセント問題、第二問題の文法・語法問題にかかる時間をいかに短縮し、かつ正確に解くかが鍵になってくると思います。

第一問題については、私は八幡成人先生のセンター試験対策「ピンク本」を大いに利用しました。ピンク本に載っている、発音・アクセントで注意すべき単語は的中率が非常に高く、狙われやすいものを頭に入れることで間違えることがほぼなくなりました。

第二問題については、その熟語や表現を知っているか知らないかに尽きると思います。私は参考書として、『UPGRADE 英文法・語法問題』(数研出版)や『Learners' ラーナーズ高校英語』(数研出版)を活用していました。参考書以外にも、辞書を引いたり英語の本を読んだりして、なるべく多くのイディオムに触れておくようにするとよいと思います。知らないものをいつまでも悩んで考えて時間をロスすることは避けなければなりません。

配点の高い長文問題でミスをしたくないことが高得点を取るポイントだと思います。そのためには、長文にかかる時間をできるだけ確保できるように時間配分することが大切です。私は過去問や練習問題を解くとき必ず時計を見ながら、自分で決めた配分に従ってやっていました。どういう時間配分がよいかは各自で試してみて決定するとよいと思います。私は読む際に、**However**や**Therefore**などのディスコースマーカに印をつけながら、論理の流れを早くつかむようにして、内容理解の手がかりにしていました。また、まず問題に目を通してから本文を読み、問題に関連する部分に線を引いておくと、解くときに該当部分を探す時間が節約できます。長文を的確に読めるようになるためには、単語や語彙を増やすことも重要です。私は『音読英単語 必修編』(Z会)を何度も繰り返し熟読したり、辞書で類義語や反意語、関連する語などを調べたりすることにより、語彙力を高める努力をしていました。

私は高校で英語を教えていただいた先生の「英語は裏切らない!」という言葉がとても印象に残っており、実際にセンター試験を受けてみて、この言葉は本当であると実感しました。がむしゃらに問題を解くのではなく、まず単語や文法など英語の基礎となる部分を確立した上で、それぞれの問題形式の特徴をつかみ、それに合わせた解き方をすることで点は伸びると思います。

今すぐ成果が出なくても、諦めずに継続して勉強をすれば、英語の力は身に付くと思います。後輩のみなさんの健闘を祈っています。

(東京大学 理科1類 2回生 小峰 瞳子)



自分は正直、英語があまり得意ではありませんでした。英語を書くことも苦手でしたが、何より英文を読むのがとても遅かったのです。

センター試験はマーク式なので、問題のほぼ全てにおいてこの「読む力」が必要になります。なので、自分は最初の数回のマーク模試は時間内に解き切ることもできませんでした。そこで自分が改善に取り組んだのは、長文の読解力です。リーダーの授業や演習問題で扱う英文を、辞書を使わず素早く読み下して、全体の流れを把握するよう心掛けました。全体の意味をつかめればよいから細かい所を気にする必要はないし、センター英語は基本的な構文がほとんどなので、学校で使う単語集をこなしていればつまづくこともありません。

要するに、文の細部を気にせず、全体を素早く読むことに慣れてしまえばいいのです。また、読解問題は文法問題に比べてはるかに配点が高いので、克服すれば少々ミスをしてでも高得点が狙えると思います。普段の授業の教材から意識できることなので、ぜひ実践して欲しいです。

(九州大学 文学部 1回生 和田 憲太)

## ●発音・アクセントは法則を覚える!

私はセンター直前まで、単語は授業で出てきたものや音単にあるものを自分で発音することで覚えていました。しかしセンターでは知らない単語が出てくることもあるので、それだけでは十分補うことができませんでした。そんな時、センター直前の12月に**発音・アクセントの法則**を知り、覚えるようになりました。法則を覚えれば、見慣れない単語が出てても対応できたし、ただもっと早くから覚えておけば良かったなと思います。

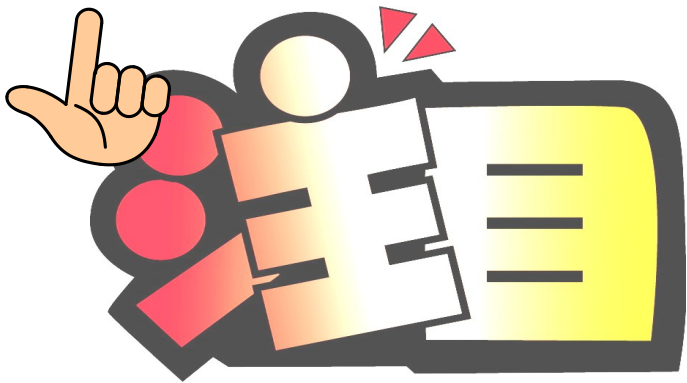
## ●長文読解問題は本文の内容を把握する!

よく設問を見てから本文で該当する箇所を探すという人を見かけますが、私はそれはできませんでした。最初に本文の第一パラグラフを読んで、何についての英文か、これからどんな展開になりそうか…などを把握してから読み進めました。今のところ大抵は第二パラグラフからパラグラフごとに設問がついているので、一つのパラグラフを読み終える度に設問に答えるようにしたら無駄がなく、スピードも速くなります。少なくとも私はそうでした。

## ●模試は絶対に見直す!

3年後半の模試ラッシュの時はさすがに間違えた問題だけを見直しましたが、比較的時間に余裕のあった時期は正解した問題でも、他の選択肢について調べたり、長文で出てきた知らない単語をピックアップして覚えたりして、模試を有効的に活用しました。過去問についても同じです。模試や過去問は試験自体は慣れるのに必要ですが、実力を上げるのに一番必要なのは見直すことだと思います。

(東京大学 文科Ⅲ類 1回生 柁瀬 ゆりえ)



# 「宝島事件」の顛末とは？



ほぼ毎日のようにブログを更新していることを、「それだけ忙しいのに、よくこれだけできますね」と声をかけて頂くことが最近多くあります。

故竹内 均(たけうちひとし)先生から教えてもらったことの一つに「15分活用法」というのがあるんです。チョットした「スキマ時間」を上手に使うことで、結構なことができるということを、竹内先生は自らの行動で実践しておられました。東大の地球物理学の教授、雑誌『ニュートン』の編集長、代ゼミの校長、全国を講演に飛び歩く中で、300冊を超える膨大な著作を残されるには、皆に平等に与えられた24時間を上手に使うしかないのでしょう。私はわずかな「スキマ時間」を利用して、実は、約2ヶ月先の記事まで作っています。そしてタイムリーな話題を時々はさんでいるんです。「先へ先へ」がコツですね。

すごいアクセス数をいただくようになりました。できるだけみなさんの参考になるな話題を書き込むように努めています。時々のでいてみてください。

【チーム八ちゃんブログURL】●●●

<http://teamhacchan.wordpress.com/>

いろいろな所で私のブログを紹介していただいています。ある人からこんな記事が載っていますよ、と教えてもらいました。私の高校時代のこと(?)が載っています。

[http://blog.livedoor.jp/logos\\_yoshii/archives/52283222.html](http://blog.livedoor.jp/logos_yoshii/archives/52283222.html)

どうやら高校時代の後輩が私のことを書いてくれたようです。あ〜、恥ずかしい…。



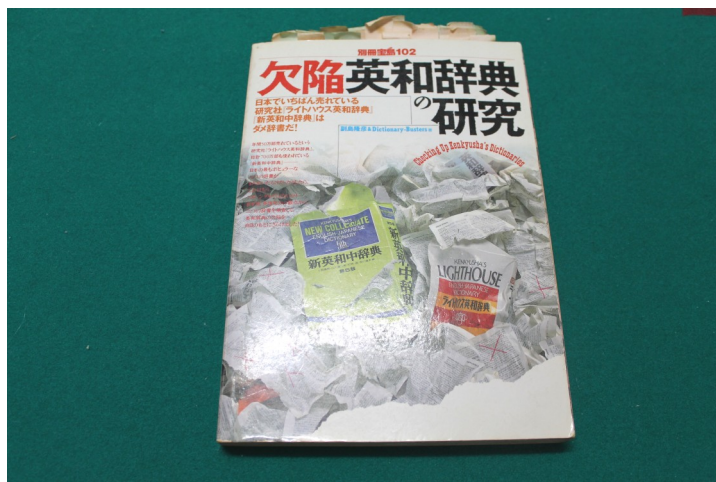
■AKBの「総選挙」結果を北高の寮の舎監室で見えていました。こんな人気投票に日本中が熱狂することに馬鹿馬鹿さを覚えながらも、徒競走で順位もつけずに手をつないで同時にゴールインすることに価値を置く今の学校制度に対する疑問、メンバーの全員がこれほどまでに順位にこだわるプロ意識、などいろいろなことを考えさせる番組でした。

中でも、結果発表の中で、グループ最年長の5位篠田麻里子が発した檄が印象的でした。「後輩に席を譲れという方もいるかもしれませんが、でも、私は席を譲らないと上に上がれないコはAKBでは勝てないと思います。」上から麻里子らしい、いい言葉です。

「潰すつもりで来てください。私は何時でも待っています。そんな心強い後輩が出てきたならば、私は笑顔で卒業したいと思っています。」

## 麻里子様の名言！

ブログに「宝島事件」の顛末を書いたら、反響がすごかった。大騒ぎした割には結果についての報道が皆無だったので、ご存じない英語の先生方も多く、沢山の先生方からメールを頂戴した。授業で、**It never rains but it pours.**「降れば土砂降り」(このbutの使い方がポイントですよ)という「ヴィンテージ」のことわざを解説したが、これは「泣きっ面に蜂」に似た言葉で、悪いときには悪いことが重なって起こるもの、という意味だ。当時どれくらいマスコミにひどく叩かれたことか。週刊誌などには、悪意のかたまりのような記事も沢山あった。再録しておきます。



▲1ページ1ページ徹底に吟味していった所、オカシナ記述に満ちあふれ、左のように付箋だらけになった同書。裁判で1つ1つ反駁していった。



1989年10月『朝日新聞』朝刊の広告に、とてもショッキングな写真が掲載されたんです(私の母はこの広告を見て倒れました)。私たちの『ライトハウス英和辞典』(研究社)の表紙と中身がズタズタに破られたものでした。宝島社の『欠陥英和辞典の研究』という本の広告でした。私たちの辞典の内容を「日本でいちばん売れている辞書はダメ辞書だ!」「欠陥だらけのダメ辞書」とこきおろし、「恥も外聞もないマヌケ集団」と罵倒し、沢山のマスコミがこれに便乗して、面白おかしく報道しました。いわゆる「宝島事件」と呼ばれるものです。研究社は、著者の副島隆彦(当時、代々木ゼミナール講師)氏と宝島社を名誉毀損で告訴しました。英語教育界が大揺れし、一大論争の末に、1996年2月28日東京地方裁判所は、宝島社に賠償支払いを命じたのでした。宝島側は控訴しましたが、東京高等裁判所は、宝島社の控訴を全面棄却し、損害賠償を命じる一審より厳しい判決が下されました。その判決文です。

「学術上の論争と言えども相当の節度及び公正さが要求されることは論を待たない。(中略)特に辞書においては本両辞典(ライトハウス英和と英和中辞典の2冊を指す)を含めて、通常の場合相当の業績を有する学者が編者となり、多数の執筆者及び校閲者が関与し、何万語の見出し語とそれに対する語義、用法指示、例文など、他の辞書や文献等を参照しながら選別記述した学術的労作である。このような対象を批判するにあたってはその表現方法や表現内容についてもそれなりの節度を要求してしかるべきである。以上のような諸事情を総合考慮すると、編集方針など批判する右部分における本主張の記載は、権威の批判の挑戦として許される過激さ、誇張の域をはるかに超え、前提として指摘する事実の一部に真実であると認められるものであっても、全体として公正な論評としての域を逸脱するものであると言わざるを得ない。」

事件に便乗して、面白おかしくデタラメ記事を捏造した新聞・週刊誌などは、この裁判結果を伝えることはありませんでした。マスコミというものの姿勢が見えてきますね。裁判結果をご存じない先生方も多くいらっしゃいます。ある先生からご質問を受けましたので、ここに記しておきます。事の顛末はこういうことです。今その副島氏は…? **????????**